

Life

社会保障

介護のキャリア段位制度

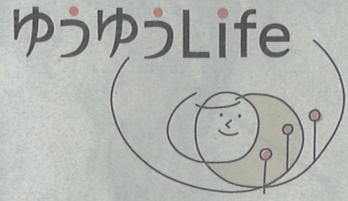
現場で正しい介護技術を発揮できるかどうかを測る「介護プロフェッショナル・キャリア段位制度」が少しずつ広がっている。介護技術の「見える化」で昇給や昇進の道筋が明確になれば、介護職のやりがいになり、ひいては人材確保につながる。国が推進している。東京都は平成27年度から、レベル認定者のいる事業所に補助金をつける。介護職確保になるか、注目されている。(佐藤好美)

東京都足立区の老人保健施設「千寿の郷」の介護職で介護福祉士の清原啓之さん(33)は夕食どき、女性入所者の口元にスプーンを近づけ、「今日はカレーですよ。もう少し食べますか?」と声をかけた。

清原さんは昨年夏、キャリア段位制度で「レベル2の①」の認定を受けた。基本的な知識・技術を使い、決められた手順で介護が実践できるレベルだ。

清原さんは「キャリア段位制度で求められる技術は、介護福祉士の資格を取るために習った内容が多く、目新しさはなかった。ただ、今まで知識として分かってはいても、声かけなどを省略しがちだった。手順を再確認できたし、改めて声かけも重要と分かり、ケアの仕方は前より丁寧になった」と言う。

同制度は介護技術を客観的に測る仕組みで、平成24年度にスタートした。同時に、職場での実地訓練に使うことが期待されている。そのため、まずは事業所内で指導的立場の人が講習を受けて「評価者(アセツサ1)」の資格を取得。評価者が、認定を受ける同僚を技術評価する。2人で評価書を作成し、実際にレベル認定は公益法人「シルバーサービス振興会」



専門職も技術を再確認

(東京都港区)が行う。千寿の郷を運営する医療法人「健和会」と系列の社会福祉法人「すこやか福祉会」には約60の事業所があり、約900人の介護職がいる。「全事業所に、技術指導ができる人を1人ずつ確保したい」との考えで、54人が「評価者」の資格を得た。評価者は一人前の仕事ができる「レベル4相当」とされる。しかし、両法人では「評価者」にも認定を受けてもらう方針。技術の確認や定着の意味があるからだ。



実は、清原さんも「評価者」の一人で、レベル認定を受けてパスした。すこやか福祉会で介護入所者に食事介助をする清原啓之さん(東京都足立区「千寿の郷」)

「技術が見える化できる」

キャリア段位制度を開発した兵庫県立大大学院の筒井孝子教授の話「これまでは、介護人材の評価に当たって技術を測ろうとしても、手法がなかった。このため経験年数が長いとか、資格の有無などが評価の対象になってきた。だが、それは『技能』を評価するものさしとしては公平とは言えない。キャリア段位制度では、介護職がそのときに応じて、必要な相手に、必要な技術を提供できるかどうかを測っている。技術を『見える化』できるので、賃金に反映する経営者もいる。今後、そうした経営者が増えることも十分考えられる」

キャリア段位制度には、148のチェック項目がある。表は、現時点で最高位のレベル4では、終末期のケアやリハビリも求められる。3月末時点で評価者は全国に約8000人、レベル認定者は428人。現段階では各事業所とも「評価者」を育成している状況だ。参加事業所には訪問介護事業所や病院もある。

チェック項目は148

評価者は認定の際に優れた介護を「やってみせ」、認定者に「やらせてみせ」「その行為の意味を言わせ」「できるまで繰り返す」ことが求められている。内部評価だけに、「お手盛りにならないよう、定期的な外部評価が義務づけられている。制度創設の背景には、深刻な介護人材の不足がある。低賃金や高い離職率が問題になるが、厚生労働省の資料などによると、離職率が高いのは一部に集

人材育成、経営効果に結びつくか

出典：財団法人介護労働安定センター「平成25年度介護労働実態調査」

中する。全介護事業所の6割近くは、離職率が全産業平均(14.8%)を並みの15%未満にとどめる。一方、離職率が30%以上という事業所も20.9%に上る。このグラフ、年間離職者が職場の3分の1に上るところが2割もあることを意味する。

こうした環境のなかで、人材育成に熱心な事業所に経営上も良い効果が生まれるようになっているかどうか。介護技術の適切な評価がその一歩として定着するか注目される。

▶▶ キャリア段位制度のチェック項目(抜粋) ◀◀

- ▶衣服の着脱
 - ☐ 体調や気候に配慮しながら、利用者に好みの服を選んでもらったか
 - ☐ ボタンの取り外しなど、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか
- ▶食事介助
 - ☐ 利用者の食べたいものを聞きながら介助したか
 - ☐ 利用者と同じ高さの目線で介助し、咀嚼して飲み込んだのを確認して次の食事を口に運んだか
 - ☐ 食事量や水分量を記録したか
- ▶トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助
 - ☐ 利用者の足底が床についているか、前屈姿勢が取れているかなど、座位の安定を確認したか
 - ☐ スポン、下着を下ろす了承を得て、支えながら下ろしたか
- ▶認知症の人の突発・攻撃的行動などへの対応
 - ☐ 利用者を観察し、驚異や不安を感じさせないように近づき、声をかけるなど対応し、利用者の行動や表情から不安や不快感などを軽減させることができたか
- ▶終末期ケア
 - ☐ 利用者・家族の看取りの場所の希望について把握しているか
 - ☐ 利用者の状態変化を正確に記録し、他職種と共有したか

